



セレンディピティ

- ◇ 以前、JR西日本のコマーシャルで「あしたセレンディピティ」というものが流れていました。ここでのキャッチコピーは、「素敵な偶然に会いに行きませんか。エクスプレスで関西へ。」です。ところで、セレンディピティって何でしょう？
- ◇ セレンディピティ（英語：serendipity）というのは、何かを探しているときに、探しているものとは別の価値あるものを見つける能力・才能を指す言葉だそうです。何かを発見したという「現象」ではなく、何かを発見をする「能力」を指しています。平たく言えば、ふとした偶然をきっかけに閃きを得、幸運を掴み取る能力のことだそうです。

この言葉は、イギリスの政治家にして小説家であるホレス・ウォルポールが1754年に生み出した造語だと言われています。
- ◇ 平成24年12月の山口新聞に、ノーベル賞を受賞した山中教授の記念講演の記事が掲載されました。それを読むと、見出しに「**予期せぬ結果、幸運招く**」とあります。Webニュースには、もう少し詳しく書かれていましたが、簡単に言うと、山中教授が研究を進めていく中で、仮説を覆す結果が出たそうですが、そのことに興味をもち、研究を続けていった結果ノーベル賞につながったというようなことが書かれていたのです。ノーベル賞を受賞できる研究をされてきたことはもちろん素晴らしいことですが、仮説に反する結果に対して興味を持ち続けたということが「予期せぬ結果」に着目することにつながったということです。JR西日本のコマーシャルで「セレンディピティ」という言葉を聞いた時、この記事思い出したのでした。
- ◇ 私たちは、教師としての職務の1つとして、日々研修に励んでいます。この研修には、研究主題というものがあり、それに基づいて職員一人ひとりが実践を積み重ねているわけです。ところが、その研究主題の達成に目を向けすぎて、それ以外のことに気づかずに進んでいくということが多くないでしょうか。一人ひとりが研究主題への取組を進めていく中で、主題とは直接関係ないけれども、子どもたちの成長にかかわる出来事に気づいたことを書き留めていき、それらを出し合ってまとめたら、新たな何かが見えてくるかもしれないなと思ったのでした。
- ◇ このように、あることに取り組んでいる最中に別の重要なことに気づくようであれば、それは単なる「幸運」ではなく、きちんとした「能力」だということです。脳科学者の茂木健一郎氏は、セレンディピティについて次のように述べています。

「偶然の出来事自体はコントロールすることはできない。しかし、偶然の出会いを生かすよう心がけることはできる。セレンディピティは鍛えることのできる能力なのである。まずは、行動を起こす事こそが肝心である。待っているだけでは幸運は訪れない。また、注目すべき出来事が起こったとき、それに気づき、受容することが大切である。特定の目的に目を奪われて心の余裕がないとセレンディピティが育まれ

ない。行動し、気づき受容する。まるで素敵な恋人との出会いのようである。」

つまり、「棚からぼたもち」というわけではなく、何かに向かって一生懸命に努力し続けた結果、得られる素敵な偶然がもたらす幸運だということです。

私が研究主任をしている時、このことを知っていたら、いろんな意味で研修の幅が広がったかもしれないと思うのでした。

文責 スギタ